

産業廃棄物管理計画書

令和5年 6月29日

福島県知事



提出者

住所 福島県 須賀川市 滑川中津沢 46-1

氏名 A&Kホンシュウ株式会社

代表取締役社長 串田 信 行

電話番号 0248(76)0215

福島県産業廃棄物等の処理の適正化に関する条例第7条第1項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	A&Kホンシュウ株式会社 須賀川工場
事業場の所在地	福島県 須賀川市 小中字 松之木内43-1
計画期間	令和5年 4月～令和6年 3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	2123 (コンクリート二次製品製造業)
②事業の規模	製造品出荷額 約25,000万円
③従業員数	25名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	コンクリート→製品加工(切断等)→小割又は→中間処理業者に委託 二次製品製造 製品原型

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とすること。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ・別紙添付			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	排出量	1128.6 t	t
	(これまでに実施した取組) ・コンクリートの使用量を計算して余分に練り混ぜをしないこと。 ・産業廃棄物を再利用できる処理業者に委託		
② 計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	排出量	1000.0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現状の取組みを維持、徹底させて減量化を図る。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・コンクリートくず・鉄くず等を分別		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状維持		

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
	目標		
②計画	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		
	産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
	① 現状	前年度（令和4年度）実績	
産業廃棄物の種類		コンクリートくず	
全処理委託量		1128.6 t	t
優良認定処理業者への処理委託量		t	t
再生利用業者への処理委託量		t	t
認定熱回収業者への処理委託量		t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t	t
(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物を再利用できる処理業者に委託			

②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	全処理委託量	1000.0t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・産業廃棄物削減の推進に努める		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



様式第1号(第2条関係)

(第1面)

<p>産業廃棄物管理計画書</p> <p>令和 5年 6月 29日</p> <p>福島県知事</p> <p>提出者</p> <p>住所 福島県 須賀川市滑川中津沢 46番地1 氏名 A &amp; K ホンシュウ株式会社 代表取締役 串田 信行 電話番号 0248 (76) 0470</p> <p>福島県産業廃棄物等の処理の適正化に関する条例第7条第1項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	A & Kホンシュウ 株式会社 天栄工場
事業場の所在地	福島県 岩瀬郡 天栄村大字 大里字 笹久保1番地
計画期間	令和4年 4月～令和5年 3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	2123 (コンクリート二次製品製造業)
②事業の規模	製造品出荷額 約43,000万円
③従業員数	24名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	産業廃棄物置場に集積後、業者へ処理委託(別紙添付)

(日本産業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) ・別紙添付			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	排出量	750.1 t	t
	(これまでに実施した取組) ・コンクリートの使用量を計算して余分に練り混ぜをしないこと。 ・生コン製造日報の作成 ・KY、QC活動を通じての排出の抑制、減量化		
②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	排出量	600 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現状の取組みを維持、徹底させて減量化を図る。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・コンクリートくず・鉄くず等を分別		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状維持		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		

## (第4面)

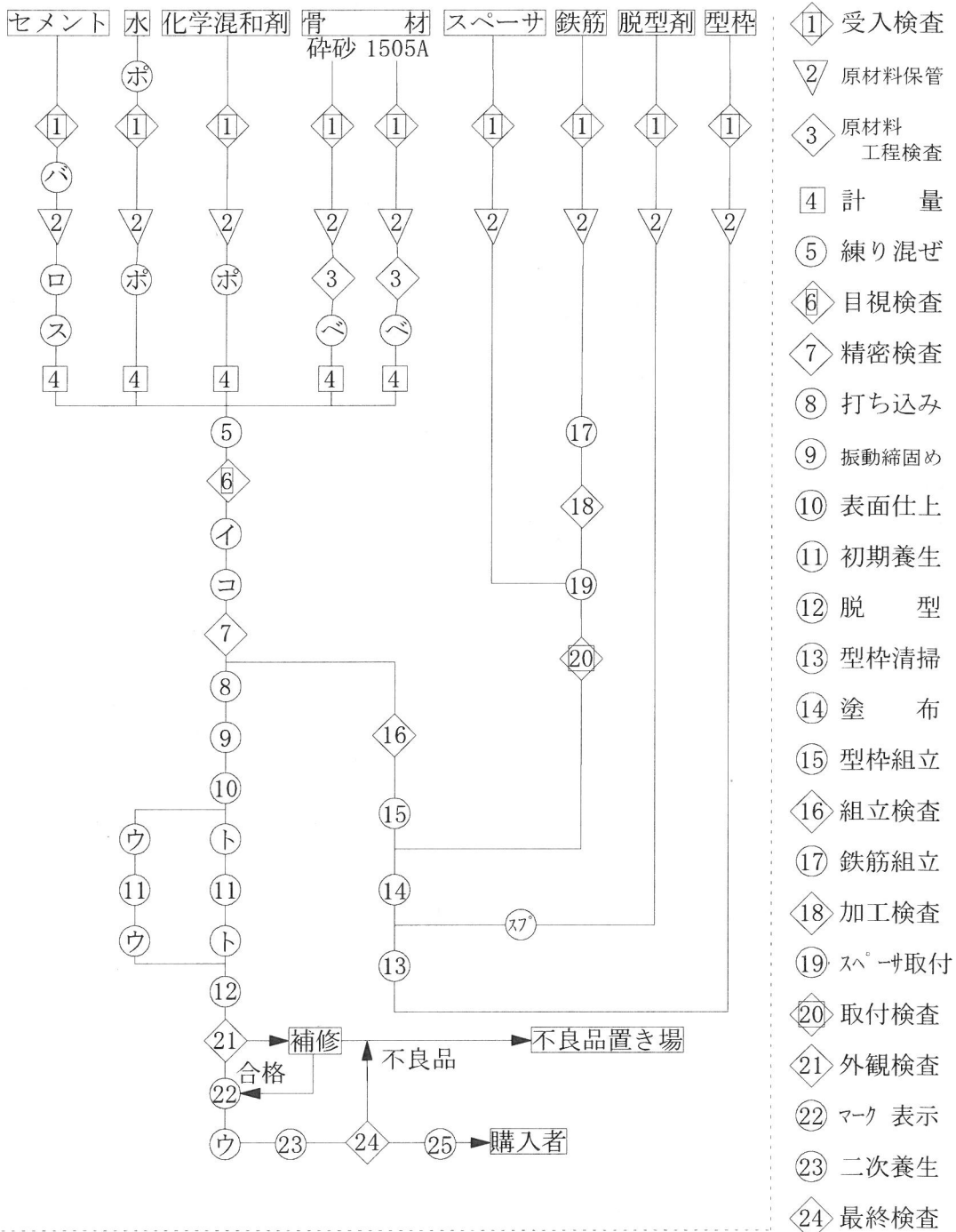
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・特になし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	前年度（令和4年度）実績		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	全処理委託量	750.1 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	目標		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	全処理委託量	600.0 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

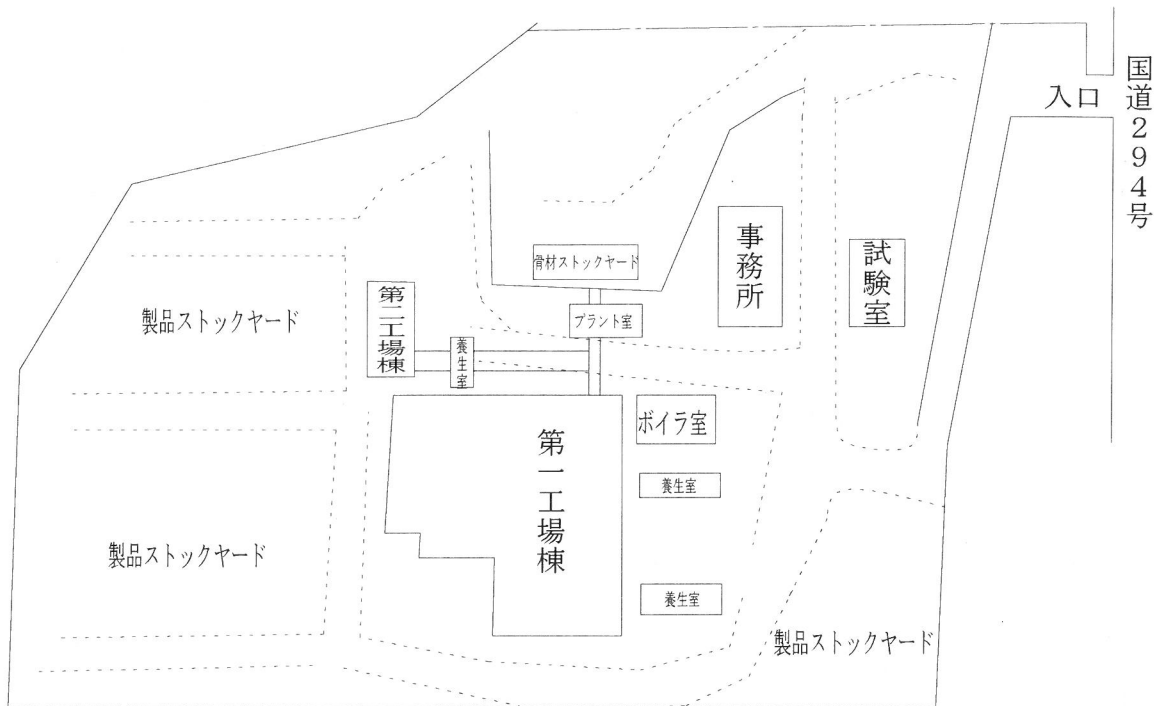
製造工程・産業廃棄物の発生フローシート



- Ⓟ バケットエレベーター    Ⓟ ポンプ    Ⓟ 移動トrolley    Ⓟ ベルトコンベア
- Ⓟ ロターリーコンベア    Ⓟ パイプ    Ⓟ コンクリート投入機    Ⓟ スプレー
- Ⓟ スクレーコンベア    Ⓟ 運搬    Ⓟ トラバース    Ⓟ タイヤショベル

- ① 受入検査
- ② 原材保管
- ③ 原材料  
工程検査
- ④ 計量
- ⑤ 練り混ぜ
- ⑥ 目視検査
- ⑦ 精密検査
- ⑧ 打ち込み
- ⑨ 振動締め
- ⑩ 表面仕上
- ⑪ 初期養生
- ⑫ 脱型
- ⑬ 型枠清掃
- ⑭ 塗布
- ⑮ 型枠組立
- ⑯ 組立検査
- ⑰ 鉄筋組立
- ⑱ 加工検査
- ⑲ スペース取付
- ⑳ 取付検査
- ㉑ 外観検査
- ㉒ マーク表示
- ㉓ 二次養生
- ㉔ 最終検査
- ㉕ 出荷

工場配置図



工場案内図

